

みさと

議会だより



美郷町議会だより

第30号

平成24年4月

美郷町議会 第1回定例会報告…	2
一般質問 8人が登壇 ……	5
委員会視察報告 ……	14
追跡 どうなったの?あの質問…	15
住民の声 ……	16

美郷町議会 第1回定例会報告



議長
景山良材

平成24年第1回定例会が3月6日に招集され、会期を3月16日までの11日間と決め開会されました。初日の6日は、町長の平成24年度施政方針表明（広報みさと第91号掲載）ではじまり、平成24年度一般会計をはじめとする町長提案36議案、議員提案1議案について慎重審議しました。本定例会の会期中には、町内小中学校の卒業式等諸行事もあり、忙しい日程でありましたが、15日の一般質問には8名の議員が質問台に立ち、町の諸施策について質しました。提案されました議案につきましては全議案とも可決して、3月16日に閉会しました。

提案された議案

条例案

- ◎美郷町委員会の委員等並びに非常勤の職員に対する報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例の制定について
3%から0・4%の範囲内。
◎美郷町税条例の一部を改正する条例の制定について
◎美郷町江の川下流域活性化基金条例の制定について
◎美郷町森原古道史跡公園条例の制定について
◎美郷町銀山街道森原古道史跡公園の整備に伴う、設置条例の制定。
◎美郷町小集落改良住宅条例の一部を改正する条例の制定について
◎美郷町小集落改良住宅（乙原団地）の家賃の一部を改正するもの。
◎美郷町営住宅条例の一部を改正するもの。
◎美郷町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
追加された。
◎美郷町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
障害者自立支援法の一部改正により、引用規定の条項ずれが生じたため、条例の一部を改正するもの。
- ◎美郷町職員の給与の特例に関する条例の制定について
現在、実施されている職員の給与カットが25年3月まで引き続き実施される。尚、カット率は2・
- ◎美郷町使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について
ゴミ袋の手数料を定めるための一部改正。
- ◎美郷町公民館条例の一部を改正する条例の制定について
社会教育法の一部改正により、公民館運営審議会
- ◎美郷町特定公共賃貸住宅条例の一部を改正するもの。
◎美郷町若者定住住宅条例の一部を改正する条例の制定について
上野ニュータウン6棟が

予算案

平成24年度予算総額 83億8056万8千円

予算は平成24年度予算及び平成23年度補正予算が提出された。各会計別の予算総額は次のとおり。

会計名	本年度	前年度	前年対比
一般会計	6,815,000千円	6,500,000千円	4.8%
住宅新築資金等貸付事業特別会計	6,173千円	8,494千円	▲ 27.3%
簡易水道事業特別会計	265,935千円	262,732千円	1.2%
下水道事業特別会計	305,270千円	306,087千円	▲ 0.3%
君谷診療所特別会計	4,552千円	4,100千円	11.0%
国民健康保険特別会計	704,665千円	671,363千円	5.0%
国民健康保険診療所特別会計	93,530千円	131,249千円	▲ 28.7%
後期高齢者医療特別会計	185,443千円	182,866千円	1.4%
老人保健特別会計	—	—	—
合計	8,380,568千円	8,066,861千円	3.9%

平成23年度補正予算

	補正額	補正後総額
一般会計	162,841千円	7,130,761千円
住宅新築資金等貸付事業特別会計	0千円	8,494千円
簡易水道事業特別会計	▲ 303千円	259,943千円
下水道事業特別会計	▲ 7,701千円	300,668千円
君谷診療所特別会計	0千円	4,529千円
国民健康保険特別会計	32,482千円	709,294千円
国民健康保険診療所特別会計	▲ 5,917千円	113,506千円
後期高齢者医療特別会計	▲ 4,156千円	181,130千円
合計	177,246千円	8,708,325千円

- 新たな雇用を創設する企画提案事業、築瀬定住住宅改修事業、地域防犯パトロール推進事業、防災対策促進事業等実施に伴い計画が一部変更された。
- ◎ 美郷町道路線の認定について
- 小松地西線の町道認定。
- ◎ 邑智郡総合事務組合規約の変更について
- 学齢簿・就学援助の共同電算処理の事務が新たに加わることに伴い、名称を変更する必要があるため、邑智郡総合事務組合規約を一部変更するため、議会の議決を求めるもの。
- ◎ 公の施設の指定管理者の指定について
- 指定管理者の指定期限が満了となったため、改めて指定の契約を交わされた。指定された施設は下記のとおり。

一般事件案

公の施設の名称	指定した管理者
美郷町ゴールデンユートピアおおち	財団法人 美郷町開発公社
美郷町カヌーの里おおち	
美郷町潮温泉大和荘	株式会社 グリーンロードだいわ
美郷町潮交流研修宿泊施設	
美郷町希少林産物等展示販売施設	
美郷町観光船第一大和丸及びけい留施設	
美郷町農林産物等直売所	みさと産直企業組合
美郷町大和農林水産物処理加工場	だいわ特産加工センター利用組合

陳情

陳情の要旨	審査結果	付託常任委員会
都賀保育園大改修工事に関する要望について（美議陳第1号）	採択	総務常任委員会
島根原発をなくし、再生可能エネルギーへの転換を求める陳情（美議陳第2号）	継続	経済常任委員会
「こころの健康を守り推進する基本法」（仮称）の制定を求める意見書に関する陳情（美議陳第3号）	採択	総務常任委員会

発議

3月16日の最終日に議員発議による意見書の提案が1件あり、全会一致で可決されました。意見書は内閣総理大臣をはじめ各関係機関へ送付しました。

「こころの健康を守り推進する基本法（仮称）」の制定を求める意見書

今の日本は、「国民のこころの健康の危機」と言える状況にある。それは、平成23年7月6日に厚生労働省が、4大疾病（がん、脳卒中、心臓病、糖尿病）に新たに精神疾患を加えて5大疾病とする方針を決めたことにも表れている。この背景には、平成20年の患者調査で、糖尿病患者数237万人、がん患者数152万人などに対し、精神疾患の患者数は323万人と最も多く、国民に広く関わる疾患となっていること、また、毎年3万人を超える自殺者の9割には何らかの精神疾患に罹患していた可能性があると考えられているためである。

平成20年度から21年度にかけて厚生労働省は、「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」を設け、現状を網羅的に明らかにし、今後の望まれる施策を報告した。この報告をもとに、当事者・家族、医療福祉の専門家及び学識経験者による「こころの健康政策構想会議」が設立され、平成22年5月に「こころの健康政策についての提言書」を厚生労働大臣に提出した。

この提言書の中で、精神医療改革、精神保健改革、家族支援を軸として、国民すべてを対象とした、こころの健康についての総合的、長期的な政策を保障する「こころの健康を守り推進する基本法（仮称）」の制定を強く求めている。

よって、政府及び国会におかれては、国民のこころの健康増進を図るため、「こころの健康を守り推進する基本法（仮称）」を早急に制定するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成24年3月16日

島根県邑智郡美郷町議会

8人登壇



町長
沖野 健

一般質問

防災公園に グラウンドゴルフ場を 芝化する予定はないが、 グラウンドゴルフは可能



議員
籾根正一

問

近年、グラウンドゴルフは高齢者を中心に愛好者が増えている傾向にある。旧邑智中学校跡地に整備予定の防災公園に、芝生化したグラウンドゴルフ場を新設し、近隣町からの大会を誘致し、地域の活性化、健康増進に努めてはどうか。

沖野町長

答

防災公園は、約7000平米の多目的広場を設け、災害時に仮設

住宅用地として利用するための、給排水管を埋設することになっているが、平常時には軽スポーツやソフトボール、少年野球も可能な広場と考えている。将来の維持管理を考えて、樹皮繊維を混入し、土壌の緩衝性を高め、雑草を抑制し、雨でもぬかるまない工法を検討している。多目的広場を芝化する予定はないが、グラウンドゴルフは可能と考えている。

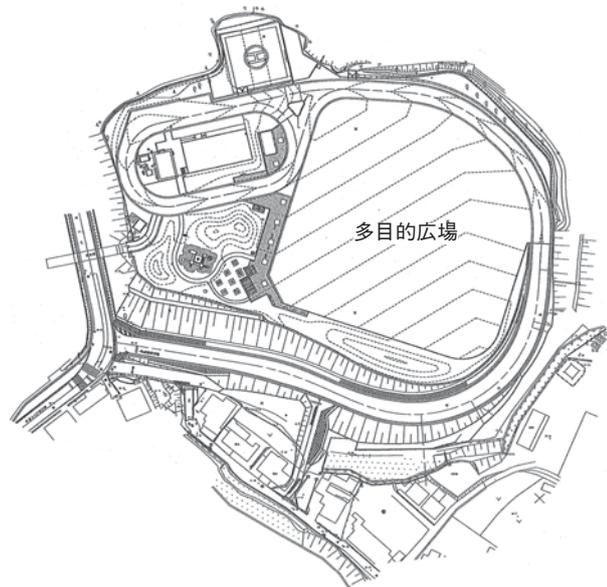
県境を超えてのドクターヘリの運行を 三次市の病院への搬送を要望する

三次市の病院への搬送を要望する

問

島根県が昨年6月に導入した、ドクターヘリの半年間の利用実績は、183日間に305回出勤があったと聞いている。島根県知事は中国5県知事会で、県境を超えての

ドクターヘリの運行を提案し、基本的な考え方を取りまとめることで合意した。広島県はドクターヘリの導入を2013年度に予定していると聞いているが、本町の中でも広島県境に近い



防災公園計画平面図

地域においては、三次市病院への搬送を望む声が多く聞かれる。

① 県境を越えてドクターヘリの搬送ができる対象地域に選定されるよう要望すべきと思うが、町長の所見を伺う。

② 冬期山間地のドクターヘリ離着陸場の確保は重要である。本町が指定しているヘリポートでの除雪体制を伺う。

沖野町長

答 ① ドクターヘリの運行については、救急医療体制確立の切り札として、昨年6月に導入されたが、運用開始以降1日あたり1・69件と高い稼働率であり、医師不足の中で、大変有効な対策として高い評価を得ている。

現在中国地方5県で、自治体の壁を越えて広域連携による運用が具体的に検討され、半径70キロ、到着所要時間20分圏域を受け持つ体制を構築することと、搬送先医療機関の選定方法も重要な課題として捉え、地域事情を踏まえ、県境を越えた弾力的な運用を視野に入れて協議が進められてい

る。

ドクターヘリによる近隣病院への搬送、特に三次市地域への搬送ルート確保は美郷町民の切望するところであり、町としても、広域連携協議の行方に大きな関心を持っている。広島県は、平成25年に広島大学附属病院を基地病院とする防災ヘリの導入が予定されており、幅広い連携が実現するものと期待している。町としても鳥根県、関係医療機関に対し、近隣圏域の搬送先病院との協定に向けて、要望を重ねていく。

② ドクターヘリの離発着場は、大和地域に5箇所、邑智地域に10箇所の指定を受けているが、冬期は、除雪が容易な大和中学校グラウンドと、津ノ目沖の河川敷を指定している。除雪体制は、大和、邑智出張所が2箇所の離発着場の除雪の要否を確認し、必要な場合は役場総務課、建設課を通じて、指定除雪業者が除雪することになっている。常時離発着ができるように除雪しており、この冬は2回除雪を実施した。

みさとネットの有効活用は

公共施設に無料アクセスポイントを整備



山本幹雄 議員

問

FTTHを利用したIP告知放送のみさと光ネットは、昨年4月に本格運用が始まり、1年を経過した。町内の電話は無料、難視聴地域への地デジ放送再放送など、みさと光ネットの効果は極めて大きなものがあり、美郷町の情報通信における大きな役割を担うライフランになつてきたと思つている。応答確認機能や、ページング放送など、まだまだ多くの活用方法があると思う。単位自治会ごとのグループ放送などは有効な方法である。可能な活用方法と活用計画があるのか尋ねる。

答

沖野町長 みさと光ネットは現在、情報通信のインフラ整備と同時に美郷町独自のサービスとして、IP告知放送システムやライブラメラ、町内の加入者同士のIP無料電話、地上デジタル放送の再送信、携帯電話基地局の整備に伴う光ケーブルの貸し出し、本庁と各出先機関や公共施設との通信回線整備などについて活用している。加入状況は95%、インターネットも34%の世帯で利用されている。可能な活用方法としては、インターネット通信回線を



IP告知端末

活用した各種資料のデジタル化による提供、ITSと呼ばれる高度道路交通システムや、医療や福祉の事業者間のネットワーク化、教育関係機関のネットワーク化による連携、産業、商業のネットワーク連携などが想定をされる。

高速インターネット環境が整ったので、町民の皆様にもコミュニティビジネスやインターネットを活用しての販売など、様々な活用を進めていただきたい。

答

原田企画課長 現在、自治会単位でグループ化してあるので、グループごとに放送を出すことは可能である。指定した電話機から放送ができるので、要綱を定め実施をしていきたい。

集落対策に更なる努力を

地域課題の解決、活性化に取り組む



波多野祐康 議員

問

我々美郷町議会で、この度、住民に対して開かれた議会をということから今年に入って、1月から2月にかけて議員全員が、各連合自治会へ出かけ、いわゆる出前議会で見聞交換を行った。そして日頃から町民の方が感じてもらえることや、あらゆる課題、また悩みなど膝を交えて話し合うことができ、大変意義ある意見交換会ができたという評価している。

活発な意見がたくさんでしたが、その中でも、それぞれの地域で共通した意見、悩みが、高齢化の進展により、自分たちの集落をどの

ようにして守っていくか、今後の維持をどうするかということであった。

本町においても、もちろんこのことを放っているわけではなく、集落対策を政策の柱として、本場に強い思いで、取り組みがなされているところである。しかし、過疎化の波、高齢化の波が予想をはるかに上回る速度で進行しており、町民の皆さんの不安の色は隠せない。町民がいつまでも安心して、この美郷町で生活を維持していくための集落を維持していくためにもより一層の対策が必要であると思う。今後どのような具

答

体策、政策を講じていくつもりか町長の所見を伺う。
沖野町長

議会において行われた全13連合自治会の意見交換会では、「地域活性化に向けて」をテーマに、様々な幅広い、真剣な意見交換、議論が行われ、非常に有意義なものであったと伺っている。集落対策、定住対策と安心・安全なまちづくりの3つの大きな政策の柱は、それぞれ深く関係しながら展開しており、地域に対して、財源と人の支援を行い、住民、地域相互の連携、また助け合いの仕組みづくりを継続的に促進するという視点を持っている。現在もさまざまな事業に取り組んでいるが、主なものは、連合自治会向けの地域力アップ交付金、地域おこし協力隊、集落支援員、除雪機購入補助金、誇りの持てるふるさとづくり補助金のほか、デマンドバスといった交通施策、集落営農組織、中山間地域直接支払といった農業施策、公民館活動などの幅が広い施策から、取り組んでいるところである。

こうした中でも、大きな1つの成果として、町内の全地域において連合自治会が設立され、体制が強化されたことである。自治会のほか、地域のさまざまなグループ、団体等が意見交換をし、連携できる場は、これからの地域づくり、集落維持の事業等において、極めて重要な意義を持つと考えている。各連合自治会では、町に限らず、他の地域や関係機関との協力、連携をしながら活動を展開し、情報交換等によって、地域同士で影響、波及もしている。

また、別府地域においては、協力隊の活動と関連して、NPO法人を設立して活動を展開し、また、吾郷地域においては、昨年に地域の活動拠点として整備をした旧吾郷小学校で、生涯学習活動等の展開、といった計画が新年度に向けて進んでおり、こうした仕組みが全地域にあることは、美郷町が他に誇るものと考えている。

地域課題の解決、コミュニティの維持、活性化のため一層の具体的な取り組みを進める。



連合自治会との意見交換会

美郷町新たな雇用を創出する 企画提案事業の概要は

新たな産業に対して雇用面からの支援を行う



品川光博 議員

問 平成24年度の町長の施政方針が示された。

人と地域の個性を活かした産業を創出する町づくりの目標のもと、美郷カレッジ開校と共に、美郷町独自の産業雇用対策として、美郷町新たな雇用を創出する企画提案事業を創設し、新たな雇用と産業の育成に取り組み、また、企業や町外からの企業誘致促進を図るとしている。そこで次の2点について尋ねる。

① 町内企業の経営革新や、あるいは起業、そして企業誘致促進の実践計画について、起案する専門職員の配

置は期待できるか。

② 起業や、企業進出に伴う支援補助金制度も考慮されているか。

沖野町長

答 美郷町では雇用を生みだす産業が少なく、町内企業も景気が不況の影響を受けて、経営革新等に取り組み意欲も少なくなっている。この課題を解決する支援策等として、町内企業の経営革新や、美郷町への企業の進出を促進するため雇用を創出する企業提案事業補助金制度を創設し、新たな産業に対して雇用面からの支援を行い、活力のある企業を育成し、産

業の活性化を図り、雇用創出を展開したいと考えている。

事業の概要は「企画提案型」と「ふるさと雇用継続支援型」の二本立てとして

「企業提案型」での提案できる事業の要件としては、

- 1、対象となる事業者は法人格を有すること。
- 2、新たな福祉や介護、ソーシャルビジネス、地域資源の活用、バイオマス関連事業分野を対象とし、事業の継続や事業拡大でないこと。
- 3、将来的に事業継続を見込んだ産業であること。
- 4、平成24年4月1日以降の事業または操業の開始を対象。
- 5、事業開始にあたっては、設備投資等の資金の用意があること。

- 1、事業開始にあたって、新たに雇用をされる者の人件費とすること。
- 2、社会保険に加入し、雇用期間の定めのないこと。
- 3、雇用者は住所及び生活の本拠地が美郷町内であること。

4、助成期間終了後も雇用を義務付けること。

補助額は、新規雇用の人件費として、一人最高300万円、一人1000万円を限度とし、補助率は初年度100%、2年度が70%、3年度が50%としている。

次に「ふるさと雇用継続支援」については、平成23年度までに島根県ふるさと雇用再生基金事業を受託した法人で、引き続き雇用した場合、平成24年度限りで、補助額は、人件費の2分の1以内とし、一人当たり最高150万円、一人50万円を上限としている。

- ① 起案する専門職員の配置については、現在想定をしていないが、経営革新や起業の内容により、必要なアドバイザーの招致、また関係機関への働きかけなど対応すると共に、企業誘致に関して情報収集や関係機関への働きかけをする。
- ② 起業支援補助金制度については、町の既存の支援策として、設備投資に対する固定資産税の免除や軽減を実施している。また事業の内容に応じて、国の雇用

開発助成金制度や県の企業立地促進助成金等の支援対応について積極的に取り組みたい。

充実した健診の機会を提供し
受診率の向上を期待する

医療検診の拡充に伴う「地域巡回型人間ドック事業」及び「肺疾患対策「ヘリカルCT検診」のモデル的導入の詳細は

問

美郷町では、生涯を通じてだけれども健康で安心できる町づくりを目指した保健、医療の充実が図られているところであり、今年度新しく、地域巡回型人間ドック事業及び肺がんを含めた肺疾患対策の一環として、ヘリカルCT検査をモデル的に導入すると施政方針にあるが、この2つの事業の、検診実施計画について説明を求めらる。

対策として、かかりつけ病院で受診できる個別健診を導入したが、効果が上がっていない。

答

「地域巡回型人間ドック事業」について

特定健診については、国は65%という高い受診率の達成を求めているが、当町の受診率は、県内ではトップクラスとは言えないものの、50%を下回っている状況にある。昨年度、受診率向上

による「地域巡回型一日人間ドック事業」の導入により、充実した健診の受診機会を提供するものである。

実施の概要は、対象者は国民健康保険の被保険者で40歳以上の者。実施場所は山村開発センターと大和事務所の2ヶ所、募集人員はそれぞれ20名で、個人負担額は、浜田地区医療セン

ター委託分と同様の6000円と設定、実施時期は10月下旬を予定している。これにより、浜田地区医療センター委託分30名と合わせ、70名のドック受診が可能となることから、国保加入者全体の受診率の向上に寄与するものと期待している。

次に「ヘリカルCT検査」について。

胸部CT検査で、らせん状に断層撮影を行うことからヘリカルCT検査と呼ばれている。

現在、肺がん検診については、国が推奨する胸部X線検査を採用し、受診率は60%強と国の設定目標50%を上回っているが、X線検査は、高度な読影技術が必要とされ、しかも発見できるがんの大きさは1センチ以上と、早期発見という面

では課題を抱えている。こうした中で、がんで亡くなる原因の第1位は肺がんであるという背景を踏まえ、がんや喫煙に起因をする胸部疾患などの早期発見に有効と言われる「ヘリカルCT検査」をモデル的に実施し、将来の肺がん検診の在り方を探ろうというものである。

実施の概要は、対象者は40歳以上の者で、たばこを吸っている人、あるいは咳、たんなどの症状が続く人、家族に喫煙者がいる人などを想定している。

実施日程は、邑智、大和地域それぞれ1カ所、みさとふるさと祭り・みさと町民文化祭に併せて、検診車を派遣して実施、募集人員は、各々50名の計1000名で、自己負担金は3000円と設定している。

浜原隣保館移設に伴い、移設完了後の多目的活用を望む

冠婚葬祭での利用は可能

問

人権を尊重する町づくりの推進に資するため、隣保館は、人権尊重の意識に基づいて、福祉の向上や、同和問題解決に向けた人権啓発の住民交流の拠点施設として設けられたものであると認識をしている。

今議会で予算提案されている浜原隣保館の移転計画は、旧浜原小学校跡地の高台に位置し、水災害や、崖崩れ等の危険性は極めて少なく、安心・安全の町づくりにも期待がもてる。

移転完了後は、体育館とともに、災害時避難場所として指定をすべきと思うが、町長の考えを問う。
次に、浜原隣保館は、従来、葬祭使用には、なぜか困難性があったと聞いている。隣保館条例では、何人も隣保館以外の事業にも使用できるとあるが、冠婚葬祭に使用は可能か。

沖野町長

答

浜原隣保館は、昭和49年に建設され、以来37年が経過し、施設は老朽化が進み耐震性も不十分な状況にある。

また、施設への進入路が狭く、駐車スペースも不十分であることから、平成24年度、浜原小学校跡地に新設をする。

新設隣保館の利用に関しては、地域から人権啓発拠点施設としての機能に合わせ、多目的に利用できる施設として陳情を受けている。避難場所としての指定については、指摘のとおり指定をしたいと考えている。

次に、施設の利用目的については、現在、浜原連合自治会長と、各自治会長、各種団体代表者の方による建設検討委員会において話し合いを進めている。この委員会の中でも同様の要望があり、地域に密着した隣保館を目指す意味でも、冠



新築移転される浜原隣保館

婚葬祭での利用は可能と考えている。

集落営農育成事業の 活性化対策は

新規就農者の確保



黒川民次郎 議員

問

美郷町版事業仕分けが昨年8月実施された。町民の見守る中で、仕分け人と町職員との間で白熱した議論が展開された。そのなかでの、集落営農

育成事業について問う。

平成12年度から、旧邑智町で本事業が始まり、今年度までに13集落営農組織が設立された。法人化は2組織、それ以外は集落営農組合として運営されているが、農業を取り巻く情勢は日に日に厳しくなってきた。事業仕分けでは、結果は要改善となった。コンバインや、トラクターなど機械更新の必要が出てきている

集落営農組合もあり、米価の低迷など農業経営を続けていくメリットが、少なくなりつつある。機械更新に慎重になっている組織もあると聞く。

集落営農組合に対して、アンケート調査をしたと聞

いているが、その結果はどうであったか。また、今後の農業振興や地域活性化の維持、活性化対策を検討するということであるが、具体的に何をどうするのか、町長の考えは。

答

沖野町長
農業を巡る昨今の状況は、課題が山積し大変厳しいものがある。

現状維持さえ危惧されている状況の下、地域の農業、地域の農地を守っているのは、中核農家と共に集落営農が中心となっている。

集落営農組織の現状を把握し、集落及び地域における今後の農業振興や地域活動の維持、活性化対策を検討するため昨年の12月アンケートを実施し、それぞれの集落で抱えている問題や町に対する要望などについて、多くの貴重な意見をいただいた。

アンケートの内容は、共通した課題として①機械の問題、②人の問題の2点であった。

① 機械については、設立後10年が経過し、共同利用機械の維持に多大な修繕費がかかっている組織もあり、更新するにも、米価や、野菜価格の低迷で思うように機械の費用が捻出できないという意見が特に多かった。町としては、任意組織から法人化を目指して国の「経営体育成事業」や、県の「地域貢献型集落営農ステップアップ事業」を活用し、機械の更新を行っていたきたい。

現状を維持するだけの組織では、事業の採択が難しい状況にあり、美郷町独自の対策として、平成24年度の新規事業として、共同利用機械の更新費用について4分の1助成をする新たな制度を創設した。

② 人の問題は、これは美郷町だけでなく全国の問題である。農業担い手の高齢化が進んでおり、65歳以上の農業者が全体の半数を越えているという現状がある。集落営農組織を立ち上げたものの、中心の担い手は設立当初と変わっておらず、高齢化も進んでおり、今後の営農活動を危惧される組織が非常に多いという結果であった。

高齢化や後継者不足、また耕作放棄地の増加などについて、国では平成24年度より、集落の未来の設計図となる「人農地プラン」の作成と、そのプラン実現に向けての各種支援策が始まる。

今後、町としては県やJAとも連携をしながら、新規就農者の確保や今後の地域活動の維持、活性化に何が必要なのか議論を深める。



営農組合へ貸与されている農業機械

統合おおち保育園の 運営状況は

職員体制は基準数である



安田勝司 議員

問

統合したおおち保育園については、保育所設置検討委員会、議会の中の教育民生常任委員会、乙原・沢谷保育所の保護者会等々で、色々議論され、紆余曲折もあったが、開所の運びになった。

1年経過したので、次の3点について現状を質す。

- ① 昨年5月1日現在と平成24年2月末現在の職員体制は。
- ② 保育園の中に設置されている支援センターの平成23年5月1日から平成24年2月までの利用件数は。
- ③ 平成23年5月1日現在と、平成24年2月末現在の

クラス編成は。

次に、今年の4月1日からは、乙原・沢谷両保育園が統合され、おおち保育園に入所することになるが、平成24年度入所申請の受付が終わり、3月中旬には、決定通知が出されると聞いている。定員は、開所当時は110名で出発したものが、1年経過し120名にするということ。また、支援センターが併設されているが、1年でできなくなり、現沢谷保育所へ行くと聞いている。執行部、邑智会の計画時の甘さが露呈されたのではないかと思う。そこで、次の4点について問う。



おおち保育園運動場

答

- ① 職員体制は、昨年5月1日時点で、16名で本年2月末時点で15名で1名減となっているが、国の定める基準保育数は12名であり業務に支障はない。
- ② 子育て支援センターの利用者数は延べで集計し、本年2月末時点で児童778名、保護者818名の計1596名の利用があった。
- ③ クラス編制については、
- ④ 入所者申請を受理した人数は何人か。
- ⑤ 決定予定人数は、何人で、クラス編成はどのようになされるか。
- ⑥ 町内の待機児童人数は。
- ⑦ 乙原・沢谷が加わり、職員は確保されているか。

沖野町長

- ④ 昨年5月1日時点と本年2月末時点において変更はなく6クラスで運営をされている。
- ⑤ 入所基準は、国が定めた基準を準用しており、手続きとしては県内でも簡素なものとなっている。
- ⑥ 入所申請の受理した児童は、127名。
- ⑦ 新年度のクラス編制は、8クラスとなる。
- ⑧ 待機児童は、6名の児童の保護者の方が就職活動中であり待機児童となっているが、就職先が決まると入所可能となる。
- ⑨ 職員の確保であるが、新年度においては、14名の体制でスタートする。

問

近年、テレビ新聞等で、子どもに対する親の虐待や、育児放棄、また一番憂慮すべき子どもの命を親が絶つという事案が、数多く報道されている。先日、新聞報道で全国の

いじめと虐待の現状は いじめと虐待の防止につとむ

法務局が、昨年1年間に救済手続を始めた人権侵害事案のうち、学校でのいじめが前年比21・8%増の3308件、また18歳未満の児童に対する暴行、虐待が、12・2%増の865件でい

いずれも過去最多であったと発表された。大変憂慮すべきことである。町内小中学校でのいじめ、暴行、虐待の事案はないか。

答

本町におけるいじめと児童虐待の実態は、平成22年度は、いじめが小学校で2件、中学校で1件、暴力行為が中学校で1件。児童の虐待については、ネグレクトが2世帯、身体及び精神的虐待が4世帯である。

また、平成23年度3月5日現在までの状況を見ると、いじめが小学校で1件、中学校で1件、暴力行為が中学校で2件、児童虐待については、ネグレクトが3世帯、身体及び精神的虐待が7世帯の状況である。

当町においても児童虐待が増加傾向ではあるが、マスコミ等で騒がれているような、深刻な状況のものはない。

しかしながら、いじめと虐待については、犯罪ともなりそうな行為で、絶対許されないことである。保護者の皆様と教員が一致協力して、地域ぐるみ、学校ぐ

るみで、いじめと虐待の防止に取り組んでいきたいと考えている。

児童生徒については、人権、同和教育と道徳教育の充実を行うことで、人を大切にし、互いに助け合い、思いやりの心を持った児童生徒に育てるように、教育の徹底を一層図りたい。

いずれにしても、子どもに対する人権侵害、暴力は本当に見えにくく、実態把握しにくい面があるが、学校及び地域、関係機関との連携をしながら、子どもたちをめぐる様々な人権問題の解決を図りたい。

田邊教育長

答

ネグレクトは、平成19年の6月に児童虐待の防止法が改正になった。そこで、ネグレクトということが重要視されるようになり、いわゆる育児放棄のことをいい、親が病気であろうが何であらうが、子どもに御飯を食べさせなかったり、あるいは風呂につけなかったり、洋服を着替えさせなかったり、ということもネグレクトの一部に入る。

美郷町では、昨年の3月

に児童虐待の予防対応マニュアルを作って、要保護対策協議会と、住民福祉課の子育て支援係の保健師と教育委員会の職員、学校が連携をして、この子ども達の見守りをしている。今は、

すべて暴力は止まって良好な状態であり、ネグレクトについても、教員の方で何回となく家庭訪問をしている。今は順調に良好な状態で経過をしている。

公民館、図書館、博物館等の 社会教育施設の充実を

図書館に併せて、資料館等の機能を持った施設を検討したい

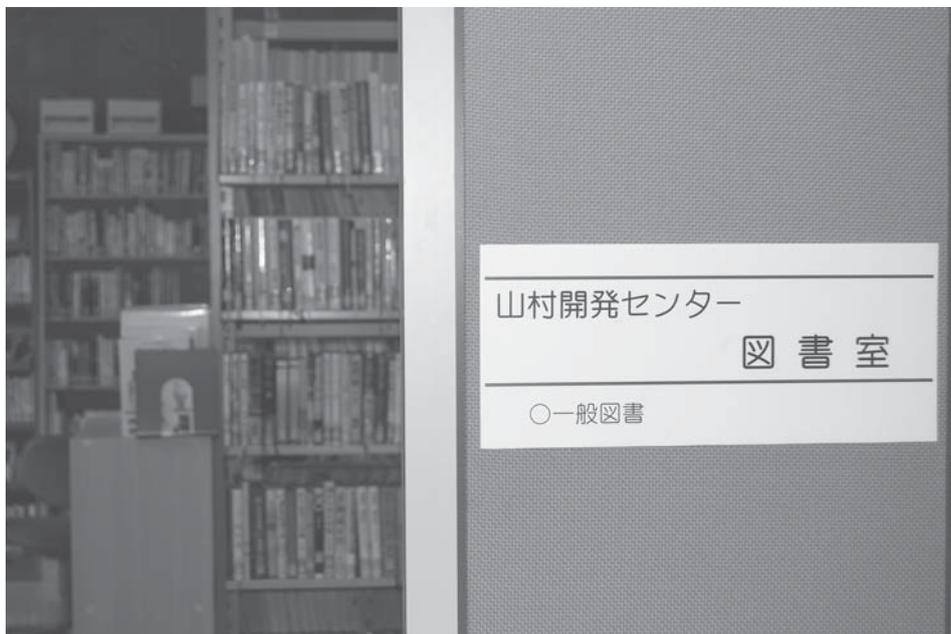


井下慈海 議員

問

豊かで潤いのある活力に満ちた地域社会を築いていくためには、人々が生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような生涯学習社会の実現を図ることが不可欠である。一方、現在、心の教育の充実が大きな課題となり、教育における地域社会の役割や家庭教

育の在り方が改めて問われている。さらに、高齢化、少子化、過疎化の進行に伴い、大きな政策課題となっている地域コミュニティの育成や地域振興に関して、生涯学習の理念に立ち、学校教育、社会教育、文化、スポーツ、社会福祉、職業能力開発等相互に関連する多様な政策を各自治体が主体的かつ積極的に展開する



ことが一層求められている。本町に於いては、こうした生涯学習を推進し拠点となる社会教育施設の整備は他の町村に比べ進んでいないような状況にある。現在行財政改革に取り組んでいる最中であるが、長期計画にこの事業を位置づけ目標を持って取り組むことが必要である。このことについて町長の所見を伺う。

沖野町長

答 生涯学習の推進については、町内の公民館、集会所隣保館、体育館において住民ニーズを取り入れた学習活動を提供し、スポーツ活動、文化活動、趣味、教養等の講座活動を推進している。

今後、地域学習の拠点となるように、連合自治会、集落支援員等の連携を密にしながら、地域力、教育力の向上の場づくりを支援したい。

また、町内2箇所の図書室においては、ボランティア

ア団体の協力により、利用者、図書の貸出数も伸びてきている。情報化社会といわれる今日、多くの人が必要な知識、情報を入手し、生涯を通じて学び続けながら、楽しく心豊かな生活を送ることを求められている。

この図書館については、こうした要求に応じて人間の向上心や知的好奇心を満たすとともに、心の充実と与えることができる施設として、今日の社会生活を営む上で欠くことのできないものとなってきている。町民が日常的に図書館を利用することによって、個々の生活向上につながり、町全体の生涯学習の推進に繋がるとも思っている。また、図書館建設の要望も出ていることを踏まえて、図書館建設を町過疎地域促進計画に載せている。今後、財政状況を見ながら、図書館に併せて、できれば、資料館等の機能を持った施設を検討したい。

沖野町政3期目に対する進退は

体力に限界、今期をもって辞意



西嶋二郎 議員

問

平成16年10月の町村合併以来、8年間で2期にわたり美郷町の町長として、数々の難題に的確に向き合い、適切なかじ取りにより美郷町の今日があるものと町民一同感じている。「水と緑いきいき輝く夢あふれる協働の町」をモットーに、少子高齢化社会と急速に進む過疎化に向き合い、若者定住対策、農業対策、雇用対策、また保育園の統合問題、道路網の整備、国道375含め数々の道路網の整備に尽力された。また、集落支援員制度の創設、地域おこし協力隊等の事業の取り組み等々、8年間の

実績は数え切れないほどのものである。今年10月23日に任期を迎えるが3期目に対しての決意を伺う。

沖野町長

答

体力的にも限界であると判断し、今期をもって辞意を表明したい。平成16年10月1日に、美郷町が誕生し、初代の首長として2期8年間で振り返ると、三位一体の改革等により大変厳しい状況にあった財政を、23年度は、実質公債費比率14・3%県下で連続してトップというような状況にした。「定住対策」「集落対策」「安全、安心な町づくり」の3つを大きな



課題として、今日まで進んできた。定住対策は、平成19年度から若者定住住宅の建設に取り組み、23年度末をもって28戸、126名の方に入居いただいた。少しは若者が定住できる環境が整ってきていると思ってい

残すところ7カ月であるが、基本理念である「水と緑いきいき輝く夢あふれる協働の町」に向かって、町民の皆様方のご理解ご協力を頂きながら、誠心誠意努めたいと思っている。

経済常任委員会

委員長 旗根正一



平成24年2月24日から26日に、経済常任委員会・総務常任委員会で、鹿児島県鹿屋市柳谷集落、愛称「やねだん」を視察しました。

人口300人、その4割が高齢者という高齢過疎が進む全国の農山村と同じような地域でしたが、16年前地元出身で50歳代の若い公民館長（豊重さん）を迎えたことから次第に変貌し、今や「地域再生のお手本」「住民にボーナスが出る集落」として知られるようになりました。

豊重館長さんの取り組みは、「本当に自分たちのやりたいことをやろうと思ったら、行政に頼らず、財源から自分たちで確保して行わないと長続きはしない」と言われ、すべての活動は自ら率先して行い、住民主体で地域づくりをされています。

また、文化こそ地域再生の力の源泉であるという信念から、芸術家を移住者と

して招き、イターン者も受け入れて人口の増加も実現されています。

本町としても「やねだん」を参考に、少しでも地域の活性化につながるよう

に努めたいと思いをしました。

総務常任委員会

委員長 安田勝司



2月26日佐賀県東松浦郡玄海町「玄海町薬用植物栽培研究所」を視察しました。平成23年5月22日オープンし、1万8千㎡の敷地内には、薬用植物見本園（約100種）薬木園（約50種）薬用植物栽培、甘草栽培温室6棟等が建設されて栽培研究がされています。薬湯としての利用、薬膳としての利用、薬酒としての利用等を九州大学医学部と連携をしながら研究されており、オープンから約1年ではありますが、美郷町も薬用植物栽培を取り組んでおり、大変参考になりました。

2月26日佐賀県東松浦郡玄海町「玄海町薬用植物栽培研究所」を視察しました。平成23年5月22日オープンし、1万8千㎡の敷地内には、薬用植物見本園（約100種）薬木園（約50種）薬用植物栽培、甘草栽培温室6棟等が建設されて栽培研究がされています。薬湯としての利用、薬膳としての利用、薬酒としての利用等を九州大学医学部と連携をしながら研究されており、オープンから約1年ではありますが、美郷町も薬用植物栽培を取り組んでおり、大変参考になりました。

追跡

どうなったの？あの質問…

本会議で行った一般質問で改善や検討を求めています。
指摘した事項に、町当局がどう取り組んでいるかを追跡調査しました。

問… 県道別府川本線の改良計画の方向性は…

答… 今後も継続して改良を推進していきます。

●平成23年までの改良率

改良延長 6,070m / 総延長 21,302m ≒ 28.5%

県道別府川本線（小松地地内）

●実施箇所

平成22年度

小松地（車道拡幅）：497m
港・久喜原（側溝整備）：201m

平成24年度予定

京覧原（部分改良）：1箇所
港（部分改良）：1箇所

平成23年度

小松地（車道拡幅）：89m
港・久喜原（側溝整備）：130m

おめでとうございます

町村議会議長会から「議員表彰」受賞

この度、岡先利和議員が全国町村議会議長会長表彰（在職15年以上）、品川光博議員、景山良材議員が島根県町村議会議長会長表彰（在職12年以上）を受賞されました。今後も益々御活躍されますよう祈念申し上げます。



岡先利和 議員



品川光博 議員



景山良材 議員

我がふるさとへの想い

君谷交流センター所長 川 角 義 信



私も、38年余勤めた元職を退職して早20年。一度もふる里を離れた事のない生粋の“江戸っ子”ならぬ“君谷っ子”である。故に故郷を愛し続けている一人かも知れない。が？「井の中の蛙大海を知らず」のまま今日に至っている。

地域の連合自治会長の経験等を買われてか、いつの間にか集落支援員を拝命し、また、昨年4月より君谷交流センターにも勤務することとなった。

我が地域は、自然には恵まれているものの、過疎化は進行し、高齢化率も50%となっている。今では地域に商店は一軒もなく買い物弱者が多い上に、交通面でも病院への通院・道路事情等課題は山積している。先ごろも、町・商工会の試みで買い物困難者に対する調査や実験的に、品物の注文をとりそれを配達と言う行程で約2ヵ月施行され利用者から大

変好評であったが、このことを継続するにはいろいろ問題も抱えており、今後の課題として検討がなされている。ただ、交通面では今回別府地域において計画されている、「過疎有償交通運行」の兆しもあり、多少望みが見えてきた感もあり期待しているところでもある。

さて、こんな状況の中、私が嬉しく思っていることがある。子ども達が春休みに入り、君谷公民館の行事の一環として開いた恒例の「春休み子ども映画会」である。いつも静かなこの地に別府地域や当地から27名もの児童が参加、映画を鑑賞し、また、体育館やグラウンドでは色々な球技でこの山間の地に大きな喚声上がり、普段では味わえない様は、何にも代えがたい元気を与えてくれた、爾後、数日間子ども達はこの公民館へ毎日のように来てくれて、賑やかな毎日！それを観ていると決して暗い話ばかりではないなあ、と気付かされた今日この頃！ではある。



編集後記

今年は、いつまでも寒く、4月になってもみぞれが降るような天気でした。

異常気象と言われませんが、何か地球が変わってきているような気がします。

例年4月号には、各地の桜を表紙に載せておりましたが、このような気候のせいで、今年には間に合いませんでした。

しかし、4月は花でいこうということで、通称「酒谷のオロチカツラ」を載せました。

この桂の木は樹齢約500年と言われ、一つの株から8本の幹が出ており、根は岩の上を10メートル以上張っています。いずれは天然記念物に…。

(佐竹記)